

一般講演 6

当院の NST 活動の現状と課題

津生協病院 NST 内科 1) 栄養科 2) 看護部 3) 薬剤部 4) 臨床検査 5)
宮崎 智徳 1) 加藤 晶俊 1) 岡本 良子 2) 猪田 秀子 2)
小家 育子 2) 落合 聖子 3) 北 知加子 3) 平田 泰美 3)
小野 友里 3) 木村 順子 3) 乾 真由子 4) 各務 新二 5)
下川 成史 5)

はじめに) 当院は、一般病床 103 床、療養病床 46 床、計 149 床の混合型病院である。NST は、約 6 ヶ月間の準備・学習期間の後、2003 年 11 月より全科型(内科・外科・整形外科)で回診を行っている。この間の活動の現状と課題について報告する。

活動の現状) NST 準備期間中計 10 回の学習会、施設見学(尾鷲総合病院、桑名市民病院)を行った。2003 年 11 月より、週 1 回の NST 回診(火曜日、午後 1 時より 60~75 分、医師・看護師・栄養士・薬剤師、) 月 2 回の学習会、月 1 回の委員会を行っている。メンバーは、医師 2 名、栄養士 3 名、看護師 5 名、薬剤師 1 名、検査技師 2 名の計 13 名である。

2004 年 6 月までの 8 ヶ月間に、68 例 138 回 NST 回診を行っている。1 回 3 から 8 例、平均 4.7 例の回診で、47 歳~97 歳まで、平均 77.5 歳で 70 歳代: 24 例、80 歳代: 22 例と多数を占めていた。療養病棟は、14 例 30 回であった。現在までの NST 活動の成果は、1) 経腸栄養剤の選択・整理、2) ハーフ食や嚥下訓練食(ソフト食など)の導入・利用促進、3) 経腸栄養の普及、4) 輸液製剤の知識整理、5) 経済面での効果、6) 早期栄養スクリーニングのための問診表の変更、7) 基本的な定期体重測定の定着、などである。

まとめと課題) 「継続は力」を合言葉に、定期回診・学習会開催などで、NST 活動・栄養評価・サポートは院内に根付いてきている。患者様を中心としたチーム医療の再構築・再認識が得られたと考えている。課題としては、NST 介入時期(早期介入、介入のタイミング)の検討、抽出症例の主治医別偏り(看護師の遠慮、主治医からの依頼件数少数)、摂食・嚥下機能評価チームの立ち遅れなどである。今後、院内外の多職種チーム・グループ・施設とも連携しながら活動を行って生きたい。